

ます。

Q 経営を良くするには、病院長、事務長が各診療科と予算を組み立て、実績の分析も必要と思うがどうか。

A 市長 民間の事業部制のように、それぞれのセクションで責任を持って計画を立てていくということを今後必要だと考えています。今の状況の中で、できるだけ経営改善をしなければならないという認識を、医師の皆さんも持っています。外科系、内科系から、実際に診療の中心になっている方を経営に参画させる組織ができましたので、すべてにおいて、事業計画は、そういう医師中心に今回作成する体制で臨んでいます。

Q 患者中心の医療を行い、信頼される病院を目指すという病院理念がありますが、職員間、また医師同士の意思疎通ができるているか。

A 市長 現状は、病院の中の体制是非常に弱く、人材が不足している。したがって、士気が衰えている、内部の風通しが悪いというのが現状です。今回の医療問題について、医局で医師に説明しましたら、中心的な医師から、今非常に経営難なことで、みんな頑張ってやつていてと同僚への呼びかけもあり

ましたので、内部的に意識が高まっていくことを大いに期待しています。

Q 救急医療体制ですが、でらぬ夜間救急はできないか。

A 市長 全国的に救急車の使い方を見直そうというマスコミの報道がされていますし、東金で講演された、夕張の村上先生も、軽微な患者は断ると言つっていました。地域の医師会との連携もとりながら、あるべき救急の姿を、市民の皆様方の理解をいただき、必要な二次救急のために、できるだけ早く、成東病院としても体制を整える必要があると思います。

●住民サービスについて

Q 本庁方式をとった後の出張所でのサービスに不満があるが、本庁はどうのカバーしているのか、内部で十分検討されているのか。

A 市長 できる限り出張所で出来る仕事は出張所で受けられるという基本的な考え方でやるよう指示しています。限られた人數なので、最終的には本庁との連絡や、出張所でできない業務が出てまいりますが、足腰の軽い、フットワークの良い行政サービスに努めます。不満があるとすれば、内部的な取り組みが不足していたんだと思います。

Q 改革での本庁方式なので、図ることは出来ないか。

A 市長 住民の立場に立ち、住民の目線でものを見、考え、相手の立場に立つてのサービスを提供できるというのが、本来、地方自治体の職員の一番の能力だと考えています。これからも、住民の期待にこたえるような組織を作つてまいります。

個人質問



蕨 真 議員

Q マスコミは、破綻の原因は「山武市長と東金市長の意見対立」、「地域エゴ」との論調で報道している。市民に正確で分かりやすい説明をすべきでは。

A 市長 かなり意図的に山武市の地域エゴを表面に出した報道がされた。説明責任があるとの指摘を受け、市民に対し私の考えてきたことを正確に説明していきたい。広報に特別のページを設けさせていただきたい。

Q 成東病院の経営診断中間報告がだされたが、経営難の主な原因と改革の内容は。

A 市長 「公立病院改革ガイドライン」(総務省)を遵守するよう言われている。医師不足による内科の崩壊が第一の原因だが、その前から年数千万円の赤字傾向にあり、年8億5,000万円前後の繰り入れも妥当ないとされ、コスト削減は避けられない。また、経営形態を地方独立行政法人などに見直すよう指摘されている。

Q 「山武市総合計画」について

A 市長 国政による格差と貧困の拡大、住民税の大増税、高市民の暮らしを直撃している。

Q 拡大、住民税の大増税、高市民の暮らしを直撃している。総合計画に、こうした市民生活の大変な実態を記述し、その打開方向を示すべきではないか。

A 市長 市民生活が非常に厳しいということは基本的に認識している。暮らしを持ち直すよう指摘されている。

A 市長 保障はないが、経営形態を変えれば報酬をかなり自由に決めることができ、医師確保ができるかもしれない。逆に、今まで医師確保の保障はまったくないといえる。

Q 独立採算を強調する地方部門の切り捨てなど成東病院の縮小の心配はないのか。

A 市長 構成市町が赤字補填をする保証はなく、公設公営は難しい。経営が成り立たなければ成東病院はなくなる。地方独立行政法人化でも、不採算部門への行政の繰り入れは認められていて、公の性格は一定残るし、そこに踏みとどまりたい。独立行政法人化の方向性で成東病院の存続を探つていきたい。

Q 独立行政法人化で医師確保の保障はあるか。

A 市長 センター構想が突然打ち切られた。多くの方が、